

# 令和2年度 学校評価計画表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

# 令和2年度 学校評価計画表

奈良県立西和清陵高等学校

校 訓	清新 敬愛 力行		
教 育 目 標	校訓「清新 敬愛 力行」の精神を基調として、社会人としての「生きる力」を育成する。		
学校経営方針	<p>(1) 日々の学習を通して確かな学力を身に付けさせると共に、一人一人の*キャリア発達を促す。</p> <p>(2) 人権を尊重する態度やコミュニケーション力を培い、自他を敬愛する心と社会規範意識を高める。</p> <p>(3) 心と体のバランスを整える力を養い、充実した生き生きとした学校生活を送らせる。</p> <p>(4) 生徒の10年後に必要な力の基礎を身に付けさせたり、学校の10年後のあるべき姿を意識して校務の工夫・充実を図ったりする。</p> <p style="text-align: center;">*キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。</p>		
目指す学校像	○ 生徒が自己実現のために生き生きと学習する学校		
目指す生徒像	<p>○ 自己実現に向けて、主体的に学習に取り組む生徒</p> <p>○ 周りの人々と適切なコミュニケーションが図れる生徒</p>		
目指す教員像	<p>○ 一人一人の生徒を深く理解し、心に寄り添い、生徒の自己実現に必要な力を育てる教員</p> <p>○ 校務を見直すと共に自己のスキルを高められ、ワーク・ライフ・バランスが図れる教員</p>		
昨年度の成果と課題	本 年 度 の 重 点 目 標	具 体 的 目 標	総合評価
<p>生徒の75%が「授業は分かりやすい」と回答しているが、学外での学習時間は十分ではなく、家庭学習が進路実現に不可欠であることを認識させる必要がある。継続指導で、遅刻者数は減少できたが、基本的な生活習慣の確立に向け更に教員間の連携が肝要である。部活動加入率が44%と低く、自己実現に向けて、部活動のみならず学校行事等への参加及びその活性化が喫緊の課題である。</p>	(1) 確かな学力の育成	<p>ア 基礎的・基本的な学習内容を定着させるための工夫・充実</p> <p>イ 思考力・判断力・表現力を高める「主体的・対話的で深い学び」の実現</p> <p>ウ 家庭学習時間の確保</p>	
	(2) 生徒の自己実現	<p>ア 一人一人の生徒の能力や適性に応じた進路指導の工夫・充実</p> <p>イ 部活動やボランティア活動を通じた、達成感、成就感、自己肯定感等の向上</p> <p>ウ 実用英語技能検定、漢字検定及びパソコン検定等の資格の取得</p>	
	(3) 社会規範意識の向上	<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 様々な場面でのコミュニケーションを通じた、ものの見方や考え方の育成</p> <p>ウ 地域協働「地域と共にある学校づくり」の工夫・充実</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
学習指導	基礎・基本の学力の定着	・目的意識を高め、学習意欲の向上を目指す。1日1時間以上、自主学習をする生徒が、50%になることを目標とする。				
		・生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。アンケートで「授業がよくわかる」と答える生徒が75%以上になることを目標とする。				
特別活動	ボランティア活動への参加・啓発	・募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。				
	生徒会活動の活性化	・各委員会で行う内容を見直し、委員会活動を起点として学校活性化を促す。				
	部活動の活性化	・部活動紹介・体験を充実させ、加入率60%を目指す。				
生徒指導	基本的生活習慣の確立	・遅刻指導対象者への指導を強化し、指導参加率90%を目指す。遅刻は昨年度比20%減を目指す。これを通して生活習慣と健康への意識高揚を図る。 ・一斉頭髪、服装点検を定期的実施する。				
	規範意識の向上	・生活アンケートを実施し自己認識を高める。また、全校集会や学年集会を通して集団意識の向上を図る。				
	あいさつの励行	・毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRでの挨拶指導を通してコミュニケーションの大切さを理解させ、その実践力の向上を図る。				
進路指導・キャリア教育	進路希望の実現	・可能な限り大学・短大・専門学校の写真やDVD等のデータを集める。 ・就職について「就職の手引き」を作成し少しでも意識を高める。				
	キャリア教育の推進	・進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で出来るだけ実施する。 ・インターンシップの案内をすることにより将来について考えさせる。				
	進路情報の提供	・「進路ニュース」を年6回発行する。 ・進路説明会やオープンキャンパスの案内、進路情報誌の適切な提供を行う。 ・進路資料室の利用を高める。 ・多目的ルームの活用を考える。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
人権教育	人権意識の確立と仲間作り	・人権意識の確立と仲間作り				
	生徒・教職員・保護者の人権意識の高揚と連携	・効果的な研修会や学習会の企画・運営。 ・生徒・教職員・保護者の共通した意識の高揚とそれに対する啓発活動の具体化を図る。				
教育相談 特別支援教育	教育相談の充実	・スクールカウンセラー配置事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。 ・校内教育相談体制の構築に努める。 ・教育相談充実のために年1回の研修を企画する。 ・外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等）との連携を図る。				
	特別支援教育の推進	・発達障がい等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。 ・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実を図る。 ・特別支援教育の推進、発達障がいの理解のために年1回の研修を企画する。 ・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。				
保健・安全管理	生徒の心身の健康状態把握と対処	・各検診の事前・事後指導の徹底を行う。 ・各種面談、健康調査票、定期検診、学校保健委員会を通じた生徒の身体状況、健康状態の共通理解を図る。				
	危機管理体制の整備と安全教育の推進	・学校安全マニュアルに基づき、緊急時の適切で迅速な体制の共通理解を図る。 ・生徒指導部と連携した生徒対象の安全教育を実施する。				
	食育教育の推進	・生徒の生活実態に基づいた、食育推進体制の強化と指導全体教育の推進を行う。 ・生徒、保護者への啓発活動を行う。				
教職員の研究・研修	生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施。	・教育研究所の研修講座、教育課程研究集会、教科等研究会の研修会に積極的に参加し、その成果を活用する。 ・校内において学習・生徒指導・進路指導・教育相談等に関する研修を各学期に1回以上実施する。 ・授業公開・授業研究を実施する。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学校事務	経営方針に基づく教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が安全にかつ安心して学習に取り組む、充実した学校生活が送れるように定期的に校内を巡回し、環境整備に努める。</li> <li>放置できない危険箇所等については、整備計画を提出し、早期に復旧できるよう関係課と連携し、働きかけをすすめる。</li> </ul>				
	学校運営経費等の適切な執行管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令を遵守し、適正な事務処理・予算執行に努める。</li> <li>光熱水費を少しでも削減できるよう管理し、省エネ等について職員への啓発に努める。</li> </ul>				
広報・渉外	学校教育活動の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌「紅葉」の発刊及びWebページ等による広報活動の推進。</li> <li>中学生の体験入学（オープンキャンパス）において、在校生が自身の感じている本校の良さを自分たちの言葉で伝えることができるシステムを推進する。</li> </ul>				
	保護者・地域・関係諸機関の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレットの内容を充実させ、新聞などの外部広報機関との連携をはかる。</li> <li>地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加・貢献して地域の理解を促進し、親睦を図る。</li> </ul>				
	同窓会の組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>同窓会組織を整備し、活性化を図る。</li> <li>名簿管理の業者委託を行い、業務の効率化を図る。</li> </ul>				
文化図書	図書情報を活用した学校生活の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、教員からの推薦図書を充実させる。</li> <li>授業をサポートし、授業・総合学習などで利用できる図書館作りを進める。</li> <li>生徒自身が必要な情報を自ら得られる場としての環境整備を進める。</li> </ul>				
	図書室利用の促進と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館だより、新着図書の紹介などの内容をより充実させる。</li> <li>生徒昇降口横の掲示板に新着図書案内や、時流に即した図書、新聞情報を随時掲示し生徒の興味・関心の喚起に努める。</li> <li>朝の読書、図書館ライブ、百人一首かるた大会などの内容を本校の実態に適合したものとし、活性化を図る。</li> <li>寛ぎの場としても図書館を利用できるように、飲食可能なスペースを試行的に設置する。</li> </ul>				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
環境・美化	校内施設の保全、安全・防災環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化関連用具、及び清掃用具の点検保全を学期毎に1回行う。</li> <li>・四季折々の花を絶やさない美化活動を行う。(年2回)</li> <li>・救助袋を使用した防災学習・訓練の実施する。</li> <li>・「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める。</li> <li>・安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。</li> </ul>				
	地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティにおける役割を担う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする。(年3回)</li> <li>・ゴミの分別回収の啓発を行うとともに、分別回収の徹底を図る。</li> </ul>				
第1学年	基本的生活習慣の見直しから確立へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を励行させる。</li> <li>・時間厳守を徹底させる。</li> <li>・身だしなみの指導を徹底する。</li> <li>・礼儀や正しい言葉遣いを定着させる。</li> <li>・規範意識の定着させる。</li> </ul>				
	学び直しから基礎学力の充実へ、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本的内容の復習をさせる。</li> <li>・家庭学習の定着（予習復習）させる。</li> <li>・授業を大切にしている意識の育成する。</li> </ul>				
	帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活の理解となかま意識を育成する。</li> <li>・学校行事や課外活動へ、積極的に参加させる。</li> <li>・思いやりの心を育成する。</li> <li>・将来を見据えた学校生活を充実させる。</li> </ul>				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策	
第2学年	中堅学年としての自覚と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の向上と規律ある行動を確立させる。</li> <li>・挨拶を励行させ、基本的な生活習慣を確立させる。</li> </ul>						
	進路実現のための基礎固め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅学年として学校行事の中心となる自覚、思いやりの心を育てる。</li> <li>・授業を大切にすることを育成する。</li> <li>・基礎学力を徹底し、家庭学習を充実させる。</li> <li>・自己能力の認識と開発をさせる。</li> <li>・進路に関わる情報を収集させる。</li> </ul>						
	第3学年	最高学年としての自覚と社会の一員となるための資質の育成						<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を確立させる。</li> <li>・学校生活の様々な場面での指導を通して、規範意識を向上させ、問題行動を未然に防ぐ。</li> <li>・学校行事等に主体的に参加させる。</li> </ul>
		進路の実現						<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的目標を早期に設定させる。</li> <li>・家庭学習を充実させ、促進講座に積極的に参加させる。</li> <li>・進路決定後の指導を徹底する。</li> </ul>